

RDF とは

博士が課程修了後に社会(研究教育機関や学界を含む)で活躍するには、研究力はもちろんですが、それ以外にもさまざまな能力が求められます。RDF (Researcher Development Framework) は、社会が研究者に求める能力(descriptor)をまとめたものです。

RDF は英国で開発されましたが、ひとつのグローバルスタンダードとして評価され、国境を越えて活用されています。そのため使用言語は英語ですが、博士課程修了者はグローバル人材ですから、国際社会が博士に何を求めているかを知った上で、英語で自分の強みや弱みを語れるようになる必要があります。

RDF Planner とは

RDF Planner は、RDF が掲げる 63 の能力を身に付けるのを助けるウェブアプリケーションです。大学院生が日常的に行う活動について、「何をしたか」「それを通してどんな能力が身に付いたか」を記録し、振り返り、研究者としての自分の強みや弱みを把握するためのオンラインツールとして活用してください。

大学院生が日常的に行う活動の一例

学会で**口頭発表**をすれば、Domain A は全般的に強化されますし、D2 の Communication methods や Communication media などの能力も磨かれます。英語による発表ならば、A1 Languages も向上します。学会の懇親会に出席すれば、B3 Networking にも役立ちます。

学会誌に**論文**を投稿すれば、上記に加え、D2 の Publication のエビデンスになります。論文執筆の課程で C1 の Attribution and co-authorship も向上しますし、期限までに提出することで B2 の Time management も鍛えられます。

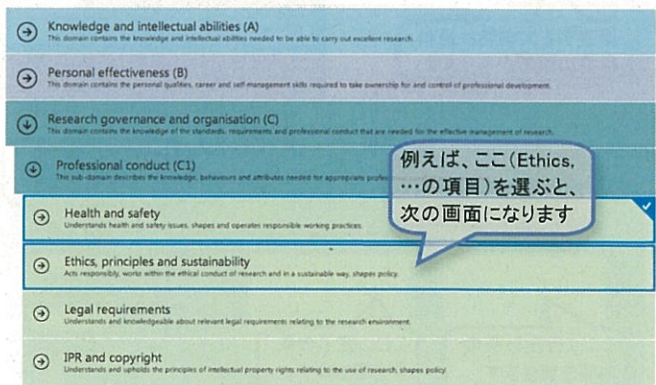
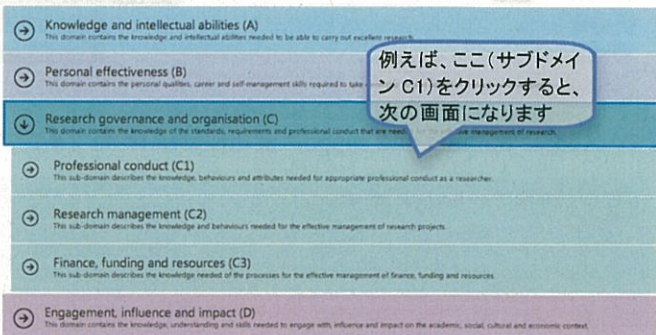
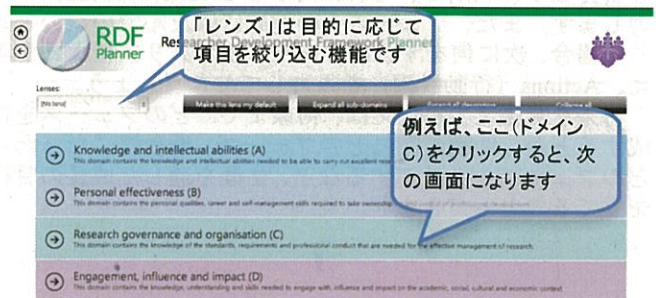
学術振興会特別研究員に応募すれば、C3 の Income and funding generation のエビデンスになります。書類を作成する際には、C2 の Research strategy や Project planning 等の能力が磨かれます。

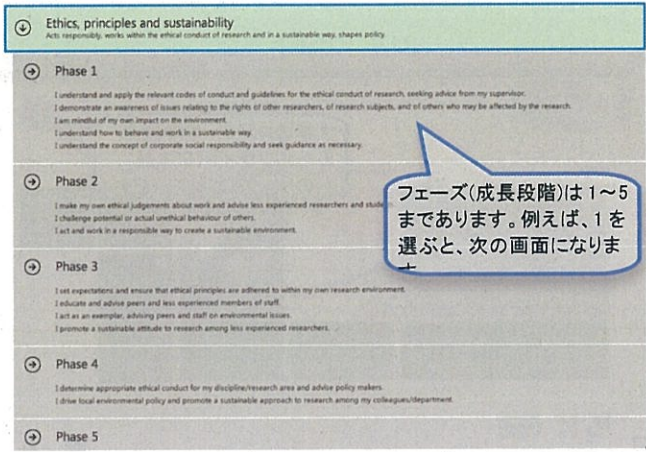
大学院共通科目「**研究倫理**」を受講したら、C1 Ethics and principles and sustainability のエビデンスになります。

TFを担当すると、D3 の Teaching のエビデンスになります。それだけでなく、D1 の Supervision や Mentoring など様々な能力が身に付きます。どんな能力が身に付いたか自分自身で振り返り、RDF に記録しましょう。

研究を周到に準備計画すれば、B2 の Preparation のエビデンスになります。**実験室**では D1 の Team working 等の能力を発揮しているでしょう。試薬や廃液を適切に管理すれば、C1 の Safety、Legal requirements のエビデンスになります。研究活動で、何気なく行っていることも、RDF に残しましょう。

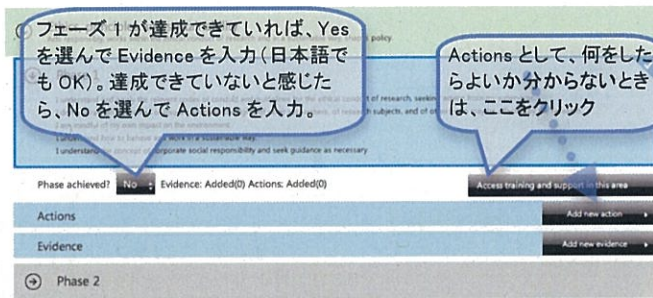
RDF の操作方法



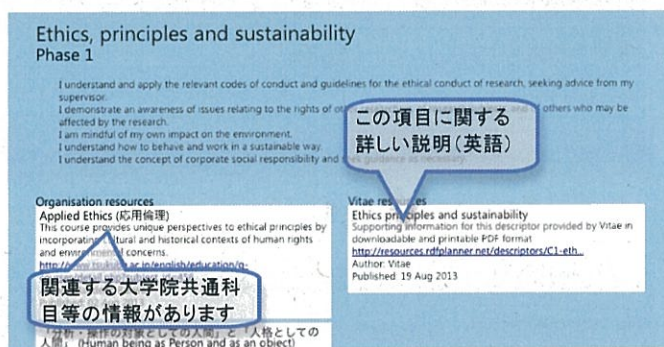


フェーズ1は若手研究者レベルで、フェーズ5はノーベル賞クラスと言われます。各フェーズの説明(ヘルプサイトに和訳あり)を読み、自分がどのフェーズに達しているかを自分なりに判断し、それに対するEvidence(根拠)を入力します。まだ、フェーズ1の達成には及んでいないと感じる場合、次に何をすればフェーズ1がクリアできるか考え、Actions(行動計画)を入力しておきましょう。

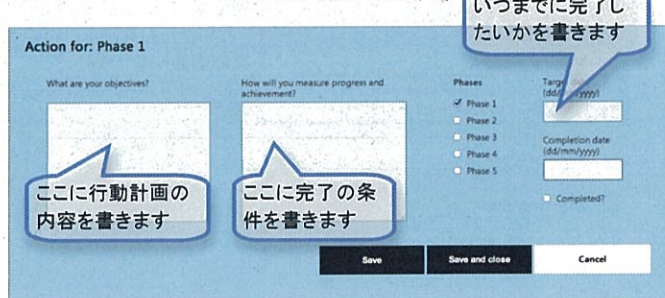
将来を見据えて、例えば、何歳までにどのフェーズを達成するとか、助教の間どのフェーズ、准教授になったらどのフェーズをクリアするなど、生涯を通した成長の目標を立てることもできます。



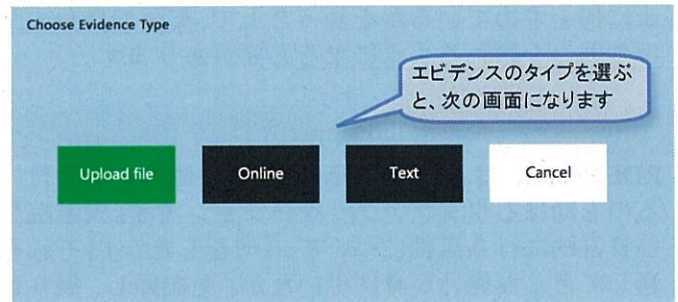
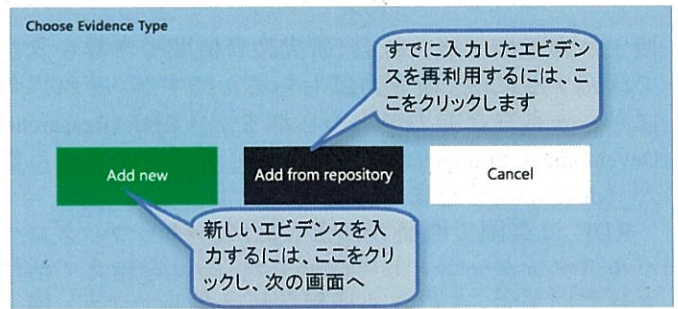
Access training and support in this area 画面 (↓)



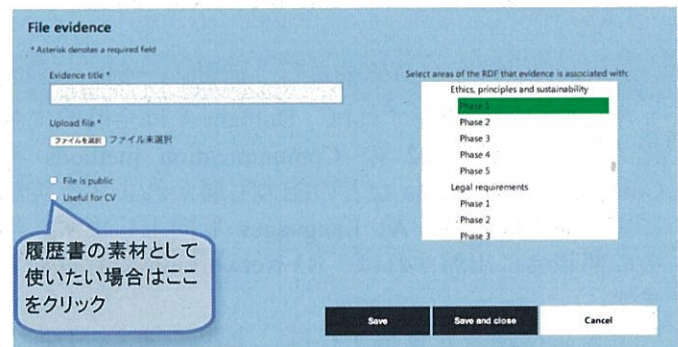
Action 入力画面(↓)



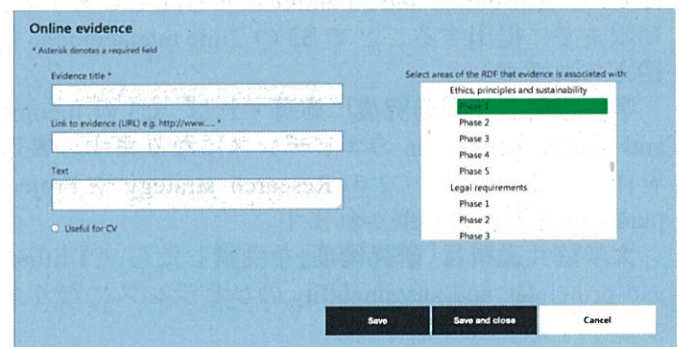
Evidence 入力画面(↓)



電子ファイルをエビデンスとして登録するには(↓)



ウェブサイトをエビデンスとして登録するには(↓)



エビデンスとして文章を入力するには(↓)

